

平成26年度和歌山県名匠

うえ みち ます お
上 道 益 大

◎ 業績及び経歴

昭和8年新宮市に生まれる。

26歳の時に、大工であった従兄弟に手ほどきを受け「御燈祭」^{おとうまつり}に使用する松明を作り始め、現在に至るまで約55年間に渡りその製作に携わっている。

「御燈祭」^{おとうまつり}は、毎年2月6日夜に行われる熊野速玉大社撰社神倉神社（新宮市）の例祭で、1800年以上の歴史を有する火祭りである。この祭りは、白装束に荒縄を締め、御神火を遷した松明を持って、神倉山から急な石段を駆け下りるもので、県指定無形民俗文化財となっている。

氏は神倉山の麓に住み、1年を通して松明を製作。木を乾燥させる工程に始まり完成までを一貫して自身の手で担っている。松明の柄の部分に「神倉神社」の焼き印があるのは、昔ながらの製法を守り続けている証である。平成22年4月には、新宮商工会議所青年部から地域振興育成奨励賞を受賞するなどその功績は地元でも広く認められている。

松明の製作に長年取り組み、「御燈祭」^{おとうまつり}という本県の代表的祭りの伝統を支えており、その功績は多大である。



職 種：松明製作

住 所：和歌山県新宮市

生年月日：昭和8年4月17日